



明峰

令和8年10月21日

第 17 号

校長 岡野利男

※合唱コンクールの振返りまできちんと終えることが大切だと考え、「長崎街道Ⅱ」は、第18号にての発行といたします。数少ないでしょうが、お待ちいただいている方々、御了承願います。

～ 合唱コンクールを終えて ～



10月16日(金)、プログラムの最後に組まれたのは3年生全員による合唱「正解」でした。歌い終えて舞台から降りてくる一人一人の顔を見ているうちに、不覚にも涙を堪えることができなくなりました。晴れやかな顔でステージから降りてくる3年生がとても立派でした。「どうだった？感動したでしょう？」口にせずとも顔にそう書いてあって、それがかわいくてなりません。

合唱コンクールとは本当にいいものです。コンクールに向かう学級には、それぞれのドラマが生まれます。学級担任から離れて20年以上経った私ですが、合唱コンクールに向かう過程で学級内に起こる衝突や挫折、苛立ちや諦め、それでも何かをきっかけに一筋の光が差し込む瞬間、鮮明に覚えています。合唱コンクール終了後、それぞれの担任の先生の振返りを聞きながら、「そうか、そんなことがあったか。」「そんな細かなところまで見てくれていたんだな。」等々、感じた次第です。学校だよりという場で、自校職員をねぎらうのはいかがなものかとの御指摘もありましたが、紆余曲折を経て10個のドラマが出来上がったことが確認できたのは、校長としての何よりの喜びです。

1年生の歌は、【可能性】を感じさせるものでした。特に男子においては、変声期にあってどう自分の歌声を着地させるかということに苦労した部分はあることを確認した次第です。

2年生の歌声には、【確かな成長】がありました。3学級とも、いわゆる正統派的な合唱曲をきちんと歌いこなすことができたこと、1年間の伸びが分かる素晴らしい演奏でした。聞けば、嬉しい涙も悔しい涙もそれぞれ美しく流れたとか…。間もなく3年生からのバトンを受け取る覚悟を感じます。

3年生は冒頭述べたとおりです。去年の今頃、中庭で練習を重ねる一つ歳上の先輩(現高一)の姿を見ていたある女子生徒のつぶやきを覚えています。

「来年の私たちには無理だろうなあ。」

近日中に、その子に、今の気持ちを聞いてみようと思っています。



～ 地域の一員として ～

8月 9日(日)	本野地区夏祭り
8月22日(土)	永昌町夏祭り
10月17日(土)	栄田町祭り
10月18日(日)	西栄田運動会

夏から秋のお祭り・運動会にお邪魔してきました。大変感激しました。

子供はこうやって地域に生まれ、地域で生きていく、やがて地域を担っていくのだということを実感した次第です。どのお祭り等においても、『地域の方が中学生を大切にしてくださっていること』『中学生の頑張りを心から喜んでくださっていること。』を感じ、

心が温かくなりました。とても嬉しかったです。

大人の力ってやっぱりすごいです。地域の力って、本当に大きいです。私の信念は「中学生の持つ力は地域を・大人を動かす」ではあるのですが、それでもやはりこのような

時間を味わうと、大人の力・地域の力にはかなわないと感じるものです。こういう場を大人と子供が共有して、「憧れ」が育まれるのだということ、改めて学びました。

本校生徒の顔もよく見かけました。こういったところでも、「校長先生、こんにちは」と挨拶できる子供たちは感心です。心からそう思います。“学校外でも・一人の時でも・制服でない時でも挨拶ができるか”は、真の挨拶の指標だと常々言っています。

なお、西栄田運動会では中学生の運営補助が随所に光っていたことを申し添えます。



本野夏まつり



永昌夏まつり



栄田町祭り



西栄田運動会
(パン食い競争)